



## キリストの聖体(ヨハネ 6:51-58)

キリストの思いを分け合う者として生きよう

黙想会に行ってみります。皆さんの平日のミサができなくなるのでご不便をおかけしますが、前にも話した通り、迫害の時代に信徒だけで260年間信仰を守り通した、長崎のクリシタンの日々を思いながら、信心業を通して信仰を維持し続けていただきたいと思います。

わたしが黙想会に行くと、ホッとする生き物がいるはず。船隠しの沖と言いましょか、神ノ浦の沖と言いましょか、そこで悠然と泳いでいる真鯛は、一週間ほどは確実に生き延びることができるからです。ただし一週間だけです。

梅雨に入ってから、数えるのも面倒になるくらいの真鯛を釣りました。何人かは、お裾分けにあずかっているはず。釣れたのはほとんど真鯛でした。どうしてほかの魚は釣れないのかなと思っていたのですが、先週はその原因の一端に思い当たりました。

それは、仕掛けを巻き上げる速さに原因があるのではと思っています。そこで、海底から10mは、これでもかというくらいの遅い巻き上げを試してみました。すると、今まで食いついてこなかった魚があれこれ釣れました。あの釣りは言わばパン食い競争の進化したもので、ぶら下がっているパンは一定の速さで移動しています。足の遅い魚はいつまでたってもパンに食いつきませんが、真鯛は足が速いので、毎回食いついてくるのだと思いました。他の説明があれば、あとで聞かせてください。

魚のおすそ分けにあずかった人は、食卓の一部を、わたしの釣った魚で分け合ってくれた人々です。一つの食べ物を、多くの人で分け合うということは、多くの人が、同じ一つの食べ物で、同じ喜びを味わうということになります。

食べ方はいろいろだったかもしれません。わたしは塩コショウをして、蒸し器で蒸して、ポン酢で食べました。皆が皆そうだったわけではないでしょうが、一つの食べ物が、多くの人に渡っていくと、喜びも大きくなる気がします。

今日はキリストの聖体の祭日です。イエスは、ご自分を食べ物として用意して、多くの人がある食卓にあずかれるようにしてくださいました。イエスがご自分を食べ物としてお与えになるとき、たとえば日曜日には、何億人も一人の人が一つの食べ物を食べ、喜びを分け合うのです。

わたしたちは、食べ物によって人間の体がある一定の方向に形作られることを知っています。肉を食べると言っても、鶏肉を中心に食べる人、豚肉を食べる人、牛肉を食べる人、それぞれが形作られていく方向は違ってくると思います。または、野菜を中心に食べる人、お米を多く食べる人、それぞれの体がある一定の方向に仕向けられていくわけです。

ではミサに参加して、聖体をいただく人々は、どのような姿に形作られていくのでしょうか。ご聖体は、小麦粉で作られたパンの小さなかけらです。ですから普通の食べ物のように、拝領したことで筋肉を作る

とか繊維質を摂取するとかそういうことではありません。けれども、キリストの御体と御血は、すべての人にとって同じ一つの食べ物ですから、きっとすべての人がある一定の方向に形作られていくのではないのでしょうか。それは、どのような姿でしょうか。

2つの考え方を示したいと思います。1つは、永遠の命を得、復活へと招かれていくということです。ご聖体をいただくことで、わたしたちの中には永遠の命が常に保たれ、この状態が保たれているので復活へと招かれることとなります。わたしたちは時間と場所の制約の中でしか生きられません、その有限の体に、永遠の命が保たれるのです。それは、「キリストの体がそこにある」ということなのだと思います。

もう少し踏み込んで言うと、聖体を拝領するとは、キリストの体の一部を持つと言えるかもしれません。さまざまな人がいます。職業も、置かれている環境も、健康状態もさまざまです。こうした人が同じ一つの聖体をいただき、キリストの体の一部を持っているのです。理解できる人、どうしても理解できない人、受け入れることができる人、どうしても受け入れられない人、さまざまな人がいますが、同じキリストの聖体によって養われたキリストの体の一部なのです。

もう1つの考え方は、キリストの聖体を受けたなら、「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」人に向かっていくのではないのでしょうか。

しかしながらこの考え方は、先の考え方よりも理解するのが難しいかもしれません。「わたしはキリストのように考えているけれども、あの人はそうではない」このように考えてしまうからです。わたしと正反対に行動する人、考える人が、どうしてキリストのように考え、キリストのように行動している人だと言えるのでしょうか。

正反対の考えや行動の人ですが、わたしたちは皆、イエスによってこの食卓に招かれました。そして間違いなく、この祭壇から、一つのパンをいただいています。それは、イエスが一人ひとりに、ご自分の御体と御血を分けているのと同じです。

イエスが食べ物となって、違う考えの人同士が一つの同じ喜びを味わえるようにしてくださったのです。イエスが可能にしてくださったことを、わたしのほうから「わたしとあの人が同じ喜びを分け合うなど、そんなことができるはずがない」とどうして言えるのでしょうか。

そこで今週は、お互い一つのことを思い巡らすことにしましょう。わたしたちは一つの祭壇から、同じ一つのパンを分け合っていますが、意見を出し合うと食い違うことがあります。対立することさえあります。どのようにしたら、同じ一つのパンを分け合った者同士、協力できるのでしょうか。そのことを考える週にしてください。

キリストの聖体を受けて、およそ一週間聖体を拝領できないかも知れません。聖体を受けて永遠の命を与えられ、復活に招かれました。さらにキリストの思いを分け合う者同士、一致して神の国のために働くことができますように、ミサの中で恵みを願いましょう。